

hand in hand

秋田県立大曲支援学校
地域支援部報 第5号
平成29年2月発行

2月3日(金)に本校を会場に特別支援教育講演会が行われました。第1部は保護者を対象に、第2部は本校の職員の他、県内の特別支援学校、大仙・美郷、地域の幼稚園・保育所・小学校の職員を対象に開催しました。第1部、第2部ともたくさんの方に参加していただきました。講演会の内容を一部御紹介します。

講師：^{とうじょう}東 條 ^{まり}真理 氏

秋田LD・AD/HD親の会「アインシュタイン」副会長

演題：第1部 「一人で悩まないで」～子どもの良いところを見つけるために～

第2部 「発達障害のある子との関わりから」

～支援者と保護者のより良いつながりを求めて～

【第1部】

○親の会との出会い

子育ての悩みを共有できた（一人じゃない）

ペアレントトレーニングとの出会い（褒め方のコツに驚く）

子どもに共感することの大切さに気付く（行動にはその子なりの理由がある）

○ペアレントトレーニングの考え方

性格ではなく行動を見る

子どもを変えるのではなく親自身の行動を変える

肯定的な注目を与えることで、良い行動は続く

（できていることも誉める、子どもが何かやり始めたときも

誉めることで良い行動が増え、悪い行動が減る。その結果

親子の関係性も良くなる）

【第2部】

○親の会には支援者の助けが必要

会の運営を助けて欲しい（事務能力や運営の問題、氏名の公表を控えたい親もいる）

視野の広い話ができる

つながりを広げることができる

○支援者が親とうまくやっていくためには

子どもの良いところや頑張っているところを伝える

親の苦労を労う（まわりから非難の目で見られることが多い…孤立する）

親のしつけのせいにしない、一緒に良い方法を考える



講演会の様子

東條さんより様々な体験談や保護者の立場で学んだことなどをお話していただきました。ありがとうございました。

相談窓口

秋田県立大曲支援学校 TEL：0187-68-4123

教 頭 松井 克彦 地域支援部主任 栗谷川 美和子

清水 達也 特別支援教育アドバイザー 岩田 智子

教諭兼教育専門監 鎌田 誠 (大仙市立花館小学校内)

せんもんかんの部屋

～ KAMACHAN'S ROOM ～

No. 6

秋田県立大曲支援学校
鎌田 誠

センター的機能としての地域支援

今年度も本校地域支援部と連携し、大仙市、仙北市、美郷町にある多くの幼稚園・保育所・認定こども園、小・中学校、高等学校を訪問させていただきました。中には10回以上も要請があった小学校もあります。それだけ本地域の特別支援教育に係るニーズが高まってきていると考えられます。

しかし、いくらニーズがあってもすぐに本校に要請が来るわけではありません。4月から5月にかけて地域支援部主任が地域のすべての校・園を訪問し、本校のセンター的機能について説明してまわります。必要に応じて私やアドバイザーも同行します。その際に「実は、こんな子がいるのですが…」と相談され、後日、要請につながったケースが多々あります。このように、地域の校・園と「フェイス・トゥー・フェイス」の関係ができて、はじめて本校のセンター的機能を発揮することができるのです。



もちろん課題もあります。主な課題について次の3点に整理してみます。

①自校・園内解決力の更なる促し

本地域の校・園では、管理職やコーディネーターの先生を中心にとてもよく校・園内の支援体制が整えられ充実してきております。また、「どうしたらよいか困っている。」という校・園であっても、実は自校・園内でできそうなことがまだまだある場合が多くあります。そこで、訪問させていただいた際には、当該校・園の職員の方に「そういうことか。」「それでいいんだ。」と気付いていただけるように具体的なアドバイスをするよう心掛けております。

②支援体制や支援内容の検証、評価

この頃、複数回要請のある校・園が増えてきました。その結果、1回目の訪問のときにアドバイスさせていただいたことがどのように生かされているのかを2回目以降の訪問の際に見届けられました。しかし、要請が1回で終わってしまう校・園もあります。恐らく、状況が好転し2回目以降の要請が必要なくなったということだと思いますが、よくなったときこそ「どうしたらよくなったのか」を検証する必要があります。どうぞ遠慮なく、要請をしていただければと思います。

③本校の専門性の向上

本校がセンター的機能としての地域支援を充実させることにより、地域の校・園とのつながりがより強くなっていきます。すると結果として、本校の取組を地域に知っていただく機会が多くなることにもなり、本校の実践をモデルにして自校・園での支援の在り方を検討したり関わらせていただいたお子さんが本校に入学・転学したりすることが多くなると考えられます。そこで、本校においてはますますの専門性の向上が必要になります。地域の期待に応えられるよう、努力していかなければなりません。

このようにいくつか課題はありますが、これからも地域の特別支援学校として、センター的機能を発揮し地域支援の充実を図っていきたく思います。どうぞよろしくお願いいたします。

☆せんもんかんのワンポイントアドバイス☆

特別支援学校には、幼稚園等、小・中学校、高等学校等の要請に応じて、特別の支援を必要とする幼児、児童生徒の教育に関して必要な助言・援助に努めるという役割があります。地域支援部員のみならず、学校全体で日頃からアンテナを高くして地域の特別支援教育に係るニーズを把握しながら、地域のモデルになるような実践を積み重ねていきましょう。